

# 2024年3月期第2四半期 決算説明会

 丸一鋼管株式会社

代表取締役会長 兼 CEO 鈴木 博之

2023年11月8日

- I. 2024年3月期 第2四半期 決算概要
  - II. 単体および主要連結子会社の状況
  - III. 足元の事業環境認識
  - IV. 2024年3月期 業績見通しと配当予想の修正
- <参考> ESGの状況

# I. 2024年3月期 第2四半期 決算概要

## ■ 決算ポイント

- 期初に予想した利益水準を上回る業績
- 通期における利益の上方修正
- 年間配当金予想の引上げ

## 連結業績

➤ 第2四半期進捗は、売上高は減収となったが、各利益は増益

【単位：百万円】

連結	2023年3月期実績			2024年3月期実績			前年比 増減額	前年 同期比 (%)	期初 予想	予想比 (%)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	上期	上期	上期	上期
売上高	65,541	72,858	138,399	67,080	68,093	135,173	-3,226	-2.3%	137,000	-1.3%
営業利益	8,789	9,623	18,412	9,331	9,937	19,268	856	4.7%	17,400	10.7%
経常利益	9,777	11,097	20,874	10,292	10,757	21,049	175	0.8%	19,200	9.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,453	7,493	13,946	6,770	7,328	14,098	151	1.1%	12,800	10.1%

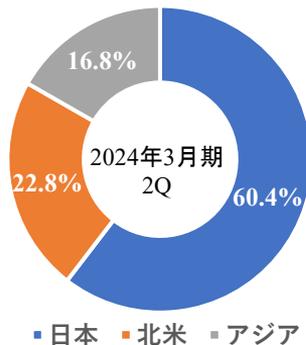
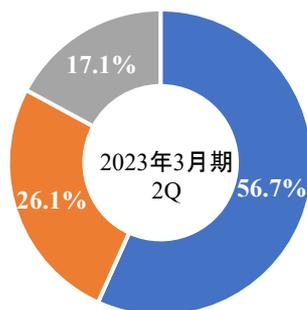
## 連結業績総括

- 第2四半期進捗は、期初に予想した利益水準を上回る業績
- 販売数量は、日本(単体)は前年比5.2%減となり、海外は前年対比3.9%増となったが、全体では1.3%減
- 売上高は、日本セグメントは増収であったが、北米・アジアが減収となり、連結では減収
- 利益面は、日本が減益になったが、北米・アジアは前年下期の落ち込みから回復し増益となり、連結の営業利益は増益  
営業外損益は、受取配当金の減少などから悪化したものの、経常利益は微増益
- 特別損益は、関係会社株式売却益などから前年比で3億91百万円改善  
これらの結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は増益

## セグメント別売上高実績

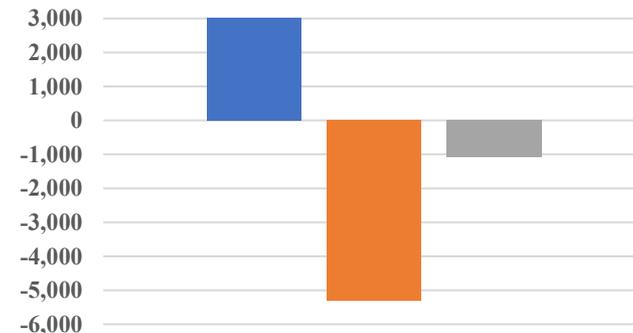
【単位：百万円】

売上高	2023年3月期実績			2024年3月期実績			前年比増減額	前年同期比(%)	期初予想	予想比(%)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期				
日本	38,529	39,994	78,523	41,429	40,268	81,697	3,173	4.0%	85,504	-4.5%
北米	16,032	20,111	36,143	14,809	16,018	30,827	-5,315	-14.7%	28,540	8.0%
アジア	10,978	12,755	23,733	10,840	11,808	22,648	-1,084	-4.6%	22,956	-1.3%
合計	65,541	72,858	138,399	67,080	68,093	135,173	-3,226	-2.3%	137,000	-1.3%



(単位：百万円)

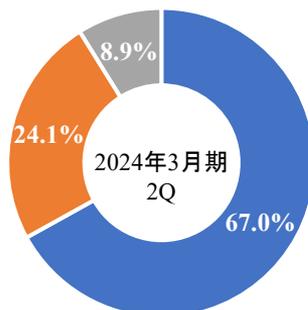
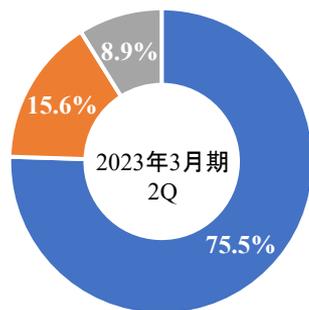
前年比増減額



## セグメント別営業利益実績

【単位：百万円】

営業利益	2023年3月期実績			2024年3月期実績			前年比増減額	前年同期比(%)	期初予想	予想比(%)
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期				
日本	6,971	6,768	13,739	6,662	6,092	12,754	-985	-7.2%	11,372	12.2%
北米	778	2,061	2,839	1,467	3,128	4,595	1,756	61.9%	3,661	25.5%
アジア	935	686	1,621	1,106	588	1,694	73	4.5%	2,168	-21.9%
調整額	104	106	210	94	130	224	14	6.7%	199	12.6%
合計	8,789	9,623	18,412	9,331	9,937	19,268	856	4.7%	17,400	10.7%



■ 日本 ■ 北米 ■ アジア

(単位:百万円)

前年比増減額



## セグメント別トピックス

## 日本

- 単体において、自動車生産が回復傾向にあるものの、当社主力の中小建築物の需要が盛り上がりず、販売数量は前年比5.2%減
- 販売数量減となったが、価格とスプレッド幅は維持
- 売上高は、単体が前年比ほぼ横這いだったが、丸ステンレス鋼管の値上げと本年度からの東洋特殊鋼業の新規連結子会社化の効果により増収
- 営業利益は、数量減による固定費負担増およびコストアップで減益

## セグメント別トピックス

## 北米

- 米国のホットコイル(HRC)価格が、年初763\$/T(トン)でスタートしたが、4月には1,300\$台/Tまで上昇し受注も堅調に推移。その後、5月から下がり始め6月後半には1,000\$/Tを下回る
- 販売数量は、北米4社が前年比5.0%増。MMX(メキシコ)は、半導体不足解消による日系自動車メーカーの増産により前年比18.5%増
- 売上高は、販売数量が増加したものの、販売単価の下落により減収
- 営業利益は、1Qのホットコイル価格の上昇に連動した製品販売価格の値上げがコイル消費単価の上昇に先行し、結果スプレッドが改善し増益

## セグメント別トピックス

## アジア

- SUNSUCO社(ベトナム)は、中国のゼロコロナ政策転換による市況回復に勢いが無く、ベトナム国内需要も回復の兆しがない中、輸出により販売数量を確保。特にハノイでの日系二輪メーカーの販売台数減少で苦戦する中、販売数量は前年比0.8%増(ホーチミンとハノイの2社計)
- KUMA社(インド)は、乗用車販売が好調で販売数量は前年比6.2%増
- アジアセグメントの売上高は、KUMA社が前年を上回ったものの、SUNSUCO社で市況の影響から販売単価が下がり減収。全体でも減収
- 営業利益は、MPST社(フィリピン)も寄与し、全体では増益

## II. 単体および主要連結子会社の状況

## 個別売上高および各利益の推移(24年3月期)

【単位：億円】

個別段階利益	売上高				営業利益				経常利益				当期純利益			
	1Q	2Q	上期	前年比	1Q	2Q	上期	前年比	1Q	2Q	上期	前年比	1Q	2Q	上期	前年比
丸一鋼管	309.5	310.7	620.2	0.2%	48.9	47.5	96.4	-9.1%	78.1	57.5	135.6	-4.0%	62.2	41.5	103.7	2.1%
丸一ステンレス	78.6	68.0	146.6	5.6%	11.9	8.5	20.4	-8.5%	12.0	8.5	20.5	-8.7%	7.9	5.6	13.5	-7.7%
その他国内子会社*1	212.0	207.0	419.0	11.0%	5.1	4.9	10.0	7.5%	9.6	5.2	14.8	4.2%	6.8	3.6	10.4	5.1%
LEAVIT(北米)	69.4	64.1	133.5	-18.3%	7.4	12.7	20.1	21.1%	7.2	13.8	21.0	21.0%	5.0	8.2	13.2	15.8%
MNT(北米)	12.0	10.9	22.9	-14.9%	0.9	1.8	2.7	黒字転換	0.9	1.8	2.7	黒字転換	0.9	1.8	2.7	黒字転換
MAC(北米)	35.5	42.2	77.7	-17.7%	3.7	9.9	13.6	47.6%	4.1	10.5	14.6	55.9%	2.9	7.6	10.5	54.4%
MOST(北米)	22.0	25.0	47.0	-10.6%	1.3	4.7	6.0	261.0%	1.2	4.9	6.1	267.2%	1.2	4.9	6.1	267.2%
MMX(メキシコ)	10.9	11.4	22.3	13.2%	2.1	2.3	4.4	-13.0%	2.2	2.6	4.8	-4.7%	1.5	2.4	3.9	7.8%
SUNSCO(ベトナム)*2	79.9	85.9	165.8	-9.8%	7.7	2.8	10.5	0.7%	7.1	3.3	10.4	-13.7%	6.5	3.2	9.7	-18.4%
KUMA(インド)	28.1	32.0	60.1	7.6%	2.6	2.8	5.4	-7.7%	3.1	2.6	5.7	12.7%	2.4	1.9	4.3	16.3%
その他海外子会社*3	3.2	2.9	6.1	91.4%	0.6	0.2	0.8	黒字転換	0.9	0.8	1.7	黒字転換	0.9	0.5	1.4	黒字転換
持分法適用関連会社									0.9	1.0	1.9	-9.5%				
連結調整	-190.3	-179.2	-369.5		1.1	1.2	2.3		-24.4	-5.0	-29.4		-29.4	-9.1	-38.5	
合計	670.8	680.9	1,351.7	-2.3%	93.3	98.1	192.6	4.7%	102.9	107.5	210.4	0.8%	67.7	73.2	140.9	1.1%

\*1 2024年3月期第1四半期より、その他国内子会社に「東洋特殊鋼業株式会社」を加えております。

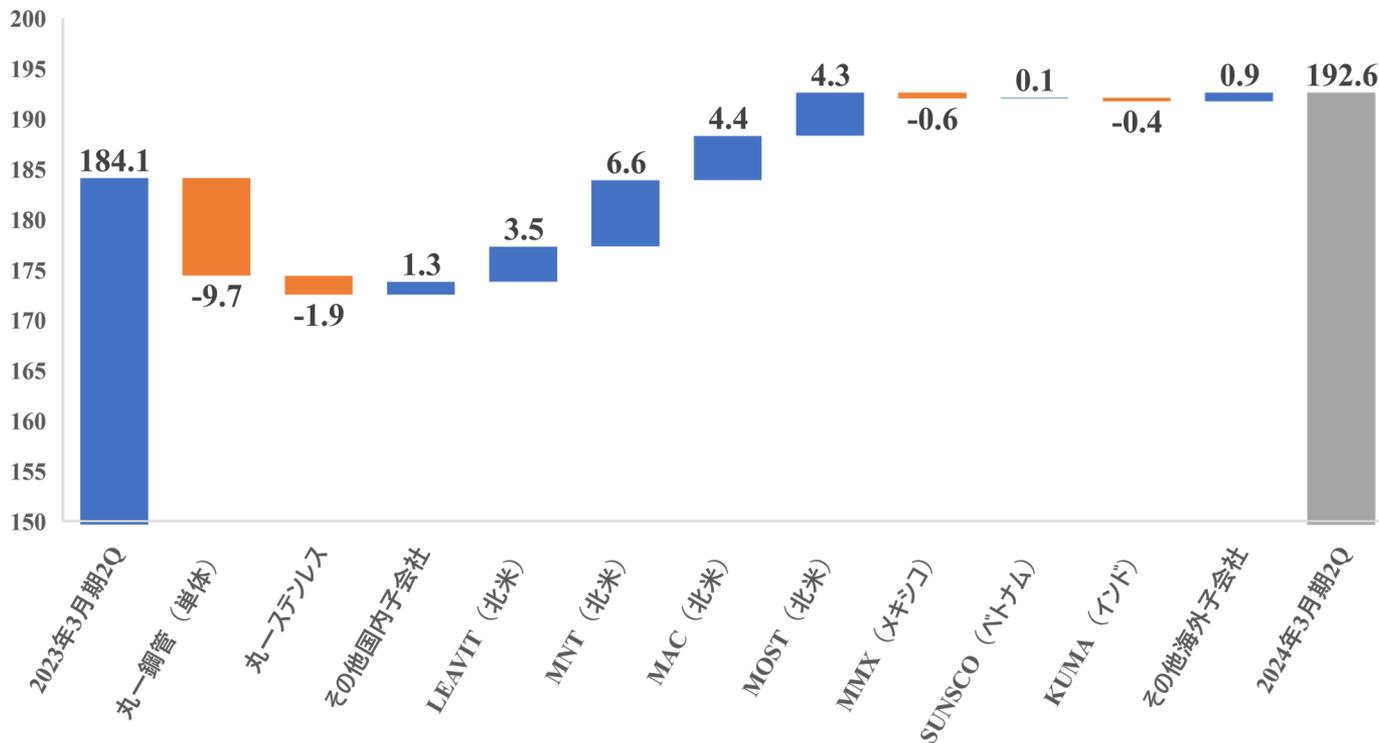
\*2 SUNSCO(ベトナム)は、ホーチミンとハノイの合算となっております。

\*3 その他海外子会社は、MPST(フィリピン)およびMST-X(テキサス)の実績です。

## 連結営業利益の増減要因(23年3月期2Q実績→24年3月期2Q実績)

(単位: 億円)

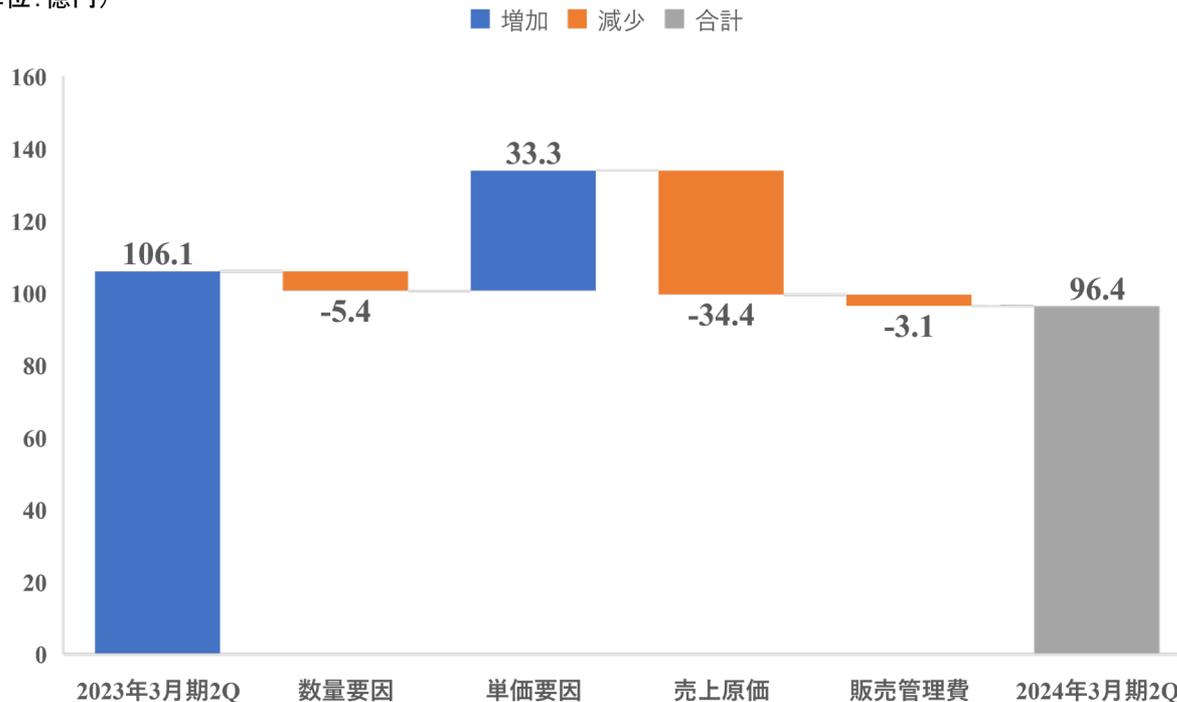
■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



➤ 丸一鋼管(単体)と丸ーステンレス鋼管が減益であったものの、北米4社が増益に貢献

## 単体営業利益の増減要因(23年3月期2Q実績→24年3月期2Q実績)

(単位: 億円)



- 販売数量は、342千トンとなり前年比5.2%減、営業利益における数量要因は5.4億円減

## 単体及び海外の販売数量の推移

販売数量 単位:千トン		四半期ベース						半期ベース	前年比
		23/3期				24/3期		24/3期 上期	%
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
丸一鋼管	建築構造用	115.0	103.9	102.5	97.9	104.5	99.1	203.6	-6.9%
	機械構造用	32.9	34.6	36.7	35.8	34.1	34.6	68.7	1.8%
	その他	40.5	33.9	38.7	37.3	33.2	36.5	69.7	-13.6%
	計	188.4	172.4	177.9	171.0	171.8	159.5	342.1	-5.2%
海外	北米(4社)	60.6	68.2	55.3	54.5	70.1	65.2	135.3	5.0%
	MMX(メキシコ)	2.8	2.9	2.8	2.7	3.4	3.4	6.8	18.5%
	SUNSCO(ベトナム)	54.6	56.2	46.4	49.9	55.9	55.8	111.7	0.8%
	KUMA(インド)	7.6	8.6	7.6	7.6	8.2	9.0	17.2	6.2%
	他(MPST)	0.7	0.7	1.0	1.4	1.2	1.1	2.3	70.6%
	計	126.3	136.6	113.1	116.1	138.8	134.5	273.4	3.9%
丸一鋼管 + 海外 合計		314.7	309.0	291.0	287.1	310.6	294.0	615.5	-1.3%

- 単体の販売数量は、引き続き中小建築案件の低迷により、建築構造用は6.9%減。自動車生産の回復から、機械構造用が1.8%増。その他では、配管用が約6%増に対して農芸用が約6%減の状況。海外各社は全て増加

## 丸一鋼販株式会社

【単位：百万円】

業績 推移	2023年2月期実績					2024年2月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	11,505	11,339	12,433	11,672	46,949	12,022	11,581	23,603	3.3%
営業利益	211	383	435	224	1,253	339	263	602	1.4%

- 販売数量は、前年比1.9%減となったが、販売単価の上昇により、売上高は上回る
- 引き続き切断加工設備を保有する12営業所でのカットコラムの拡販に注力し、カットコラムの販売数量は前年比14%増加
- 丸一鋼管グループは、2025年大阪・関西万博のパビリオンの建築構造に参加



## 丸一ステンレス鋼管株式会社

【単位：百万円】

業績 推移	2023年3月期実績					2024年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	6,108	7,775	8,526	8,123	30,532	7,857	6,804	14,661	5.6%
営業利益	1,124	1,113	1,891	1,278	5,406	1,195	852	2,047	-8.5%

- 半導体メモリ相場が軟調に推移し、半導体大手の設備投資も遅れ気味に推移している。そのため、装置・施工業者は、過剰在庫の解消に時間を要している
- ステンレス管は、国内ではごみ焼却発電用ボイラーが堅調に推移するも、その他プラント用配管は需要低調
- 海外市場は、金利高とNi(ニッケル)相場下落に伴い、在庫圧縮傾向が顕著



Maruichi Stainless Tube Texas Corporation  
(MST-X)  
2024年2Q生産開始予定

## LEAVIT・MNT(北米)

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	73,607	79,020	56,784	47,097	256,508	57,132	56,682	113,814	-25.4%
営業利益	3,022	7,607	-2,403	-6,119	2,107	5,372	10,974	16,346	53.8%



- 2022年度と同じような価格上下が続く。米国CRU価格は1~4月で500ドル/T(トン)増、それ以降は10月まで500ドル/T減。これらの上下動に影響されて構造用鋼管も5月の価格ピークから下がり始める
- 但し、各分野の構造用鋼管に対する需要は落ちていないようで、サービスセンターの価格に対する買い控え等から鋼管ミルが振り回されている様相
- 自動車は部品供給不足も緩和されて忙しくなっている状況。配管関係は相変わらず需要は底堅い傾向

## MAC・MOST(北米)

(単位: US \$ thousand)

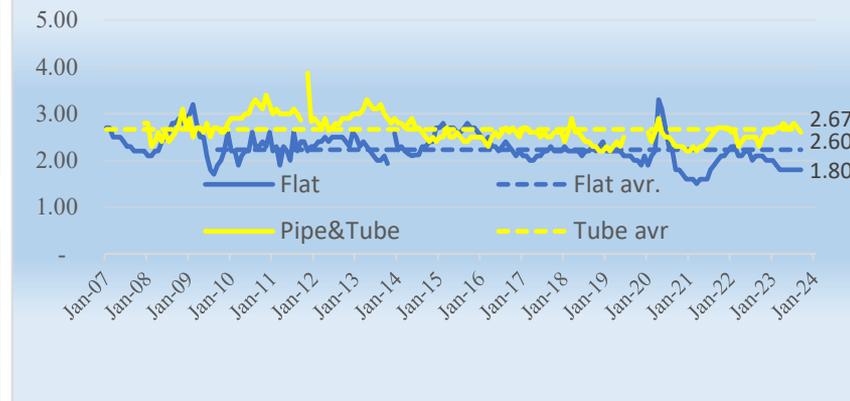
### MAC(北米)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	33,443	43,170	30,822	23,765	131,200	26,624	30,702	57,326	-25.2%
営業利益	1,710	5,809	1,787	-1,901	7,405	2,760	7,360	10,120	34.6%

### MOST(北米)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	19,801	21,382	12,698	9,709	63,590	16,097	17,737	33,834	-17.8%
営業利益	-145	706	-586	-4,898	-4,923	951	3,522	4,473	797.3%

## 米国市中在庫



- 4月中旬にピークとなった米国CRU価格はその後10月まで値下げ局面となった。インフレ懸念による警戒感によるものと思われる(在庫圧縮)。一方で需要そのものはMAC/MOSTの出荷/受注量を見ても大きく落ち込んでいようには見えない
- 10月に入り自動車労組(UAW)のストライキ突入などで、コイルメーカーの受注量には影響が出た。インフレの影響が相場とは違う分野で露呈
- 引続き相場は調整を経ながらも比較的健全な動き。年末にかけUAWのスト影響等がどの程度悪影響を及ぼすか注視していたが、足元ではストは解決しCRU価格は回復傾向

## MMX(メキシコ)

(単位: US \$ thousand)

業績推移	2022年12月期実績					2023年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比(%)
売上高	8,132	7,954	7,504	6,617	30,207	8,213	8,376	16,589	3.1%
営業利益	2,413	1,980	1,382	1,056	6,831	1,740	1,882	3,622	-17.6%

- メキシコ国内自動車販売数量は前年対比(1~6月)22.1%増(63万台)となり、2019年のコロナ前に比べて数量的にはほぼ完全に回復
- 米国CRU価格は4月以降下げ傾向となっており、これによるメキシコでの販売価格の影響は10~12月に出てくるものの、6月までに取り組んで来た在庫調整の効果もあって影響は軽微
- 上期期間(1月~6月)にて在庫調整は終了
- 日系自動車メーカーの生産は回復。販売数量も安定し前年対比18.5%増

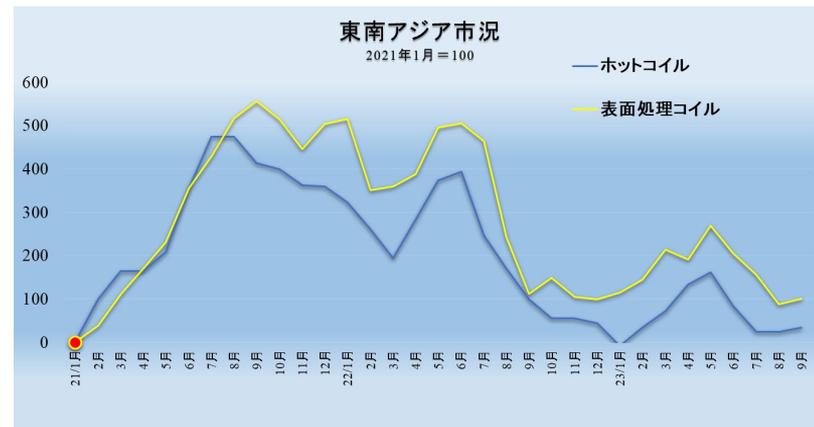


メキシコにおける第2工場  
ヌエボ・レオン州モンテレイ  
鋼管製造工場建設決定  
2025年稼働予定

## SUNSCO(ベトナム)

(単位: US \$ thousand)

業績 推移	2022年12月期実績					2023年12月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	73,504	75,974	57,006	54,657	261,141	60,306	62,579	122,885	-17.8%
営業利益	3,564	122	-13,473	-1,345	-11,132	4,212	340	4,552	23.5%

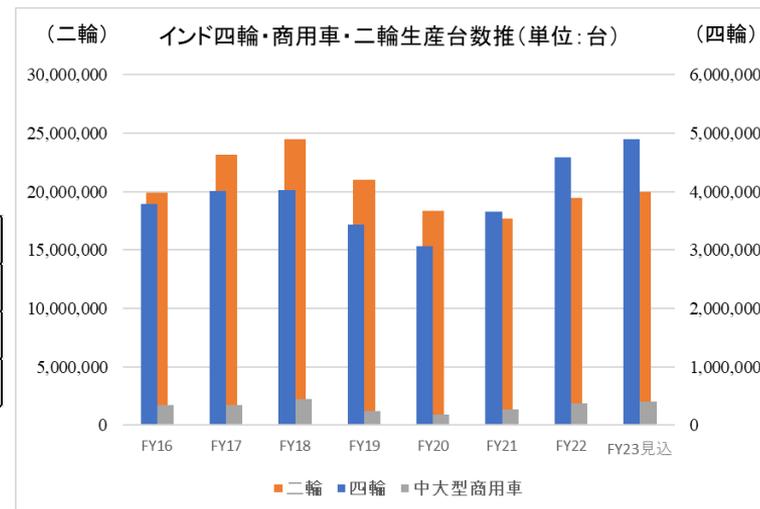


- 1～6月は国内需要の低迷および国際市況の不安定さにより、競合各社とも前年比で販売数量を落とす中、SUNSCOは輸出の受注を増やし、販売数量は前年比、若干のプラス(+1千T)
- 営業利益は不採算取引の減少・改善により、前年比23.5%増と環境が悪い中でも利益を確保
- 国内需要は引き続き建設需要を中心に低迷しており、国内の競合各社も輸出主体で稼働を維持している状況
- SUNSCO社も米国、メキシコ向けを中心に受注活動を積極的に展開中

## KUMA(インド)

(単位: US \$ thousand)

業績推移	2023年3月期実績					2024年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	上期	前年比 (%)
売上高	19,797	22,337	19,351	20,436	81,921	20,787	22,550	43,337	2.9%
営業利益	1,908	2,415	1,893	2,006	8,222	1,904	2,015	3,919	-9.3%



- インド四輪生産台数はSUV販売が牽引し、上期(4月～9月)も前年対比6.2%増と好調に推移
- 中大型商用車の上期生産台数は、インフラ整備が追い風となり前年比8.5%増と好調に推移
- 二輪の上期生産台数は、前年対比0.2%微減となり、コロナ前の需要水準まで回復していない。
- KUMA社の二輪は、上期に失注もあり競争激化。原材料高も続く
- 全体としては堅調に推移しており、上期実績は販売数量、利益ともにほぼ計画値

# III. 足元の事業環境認識

国内 需要	鋼板類	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内自動車生産の回復はより鮮明に。鋼板類は比較的堅調</li> <li>● 韓国、台湾ミルは中国・東南アジア市況が軟調で勢い無いが、円安とフレート高の影響で対日向けオファー価格は値上げを希望</li> <li>● 一方、日本国内の相場は改善しているとは言い難く、綱引き状態</li> </ul>
	鋼管類	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車向けはほぼ平常レベルまで回復</li> <li>● 首都圏で建設の牽引役であった大型物件も端境期となり、中小物件も人手不足等が需要に悪影響を与える</li> <li>● 依然として全体的に市況は弱い。数量重視の姿勢を一部メーカーが続けており、市況軟化の原因</li> <li>● 農業、酪農関連需要は低調。中径杭関連は堅調。グリーンハウス、足場管等は低迷。コラムは善戦</li> </ul>

海外 需要	北米	<ul style="list-style-type: none"> <li>●インフレ懸念あるも引き続き鋼材需要は堅調</li> <li>●上げ相場であった1Qは、2Qに入り調整局面となった。市況下げ幅は比較的なだらかで、各社とも健全なスプレッドを維持していたことから、今後の販売単価と使用単価を注視して採算性を維持</li> </ul>
	中国	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゼロコロナ政策の解除による市況回復期待は完全に空振り。不動産関連問題の鋼材市況への影響大</li> <li>●中国高炉メーカーは昨年と同レベルの生産を維持すると予想されていたが、需給は悪化</li> <li>●東南アジア向けの輸出も振るわず</li> </ul>
	ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1～6月の実質GDP成長率は3.72%と前年比2.7%悪化。不動産は引き続きマイナス成長</li> <li>●中国市況の影響から相場は弱く、先行き不透明感が改善していないことから軟調</li> <li>●国内建築不動産需要は依然として低迷。SUNSCO社は米州への輸出に振分け出荷量を維持</li> </ul>

# IV. 2024年3月期 業績見通しと 配当予想の修正

## 決算見直しの修正

➤ 第2四半期進捗は、予想を上回る利益水準で推移したことから、通期予想の修正を実施

【単位：百万円】

連結	2023年3月期			2024年3月期			前年比 増減額	前年 同期比 (%)	期初 予想	期初 予想比 (%)
	上期 実績	下期 実績	通期 実績	上期 実績	下期 修正計画	通期 修正計画	通期 修正計画	通期 修正計画	通期	通期
売上高	138,399	135,017	273,416	135,173	134,827	270,000	-3,416	-1.2%	273,500	-1.3%
営業利益	18,412	11,607	30,019	19,268	14,232	33,500	3,481	11.6%	30,500	9.8%
経常利益	20,874	13,542	34,416	21,049	14,751	35,800	1,384	4.0%	33,000	8.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	13,946	10,218	24,164	14,098	10,302	24,400	236	1.0%	22,500	8.4%

## セグメント別売上高・営業利益予想

【単位：百万円】

売上高	2023年3月期実績			2024年3月期			前年比 増減額	前年 同期比 (%)	期初 予想	修正比 (%)
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想	通期	通期	通期	通期
日本	78,523	84,721	163,244	81,697	83,167	164,864	1,620	1.0%	172,155	-4.2%
北米	36,143	28,908	65,051	30,827	25,947	56,774	-8,277	-12.7%	53,005	7.1%
アジア	23,733	21,386	45,119	22,648	25,714	48,362	3,243	7.2%	48,340	0.0%
合計	138,399	135,017	273,416	135,173	134,827	270,000	-3,416	-1.2%	273,500	-1.3%

営業利益	2023年3月期実績			2024年3月期			前年比 増減額	前年 同期比 (%)	期初 予想	修正比 (%)
	上期	下期	通期	上期実績	下期予想	通期予想	通期	通期	通期	通期
日本	13,739	13,749	27,488	12,754	11,322	24,076	-3,412	-12.4%	22,607	6.5%
北米	2,839	-1,661	1,178	4,595	333	4,928	3,750	318.3%	3,568	38.1%
アジア	1,621	-637	984	1,694	2,562	4,256	3,272	332.5%	3,997	6.5%
調整額	210	158	368	224	16	240	-128	-34.8%	328	-26.8%
合計	18,412	11,607	30,019	19,268	14,232	33,500	3,482	11.6%	30,500	9.8%

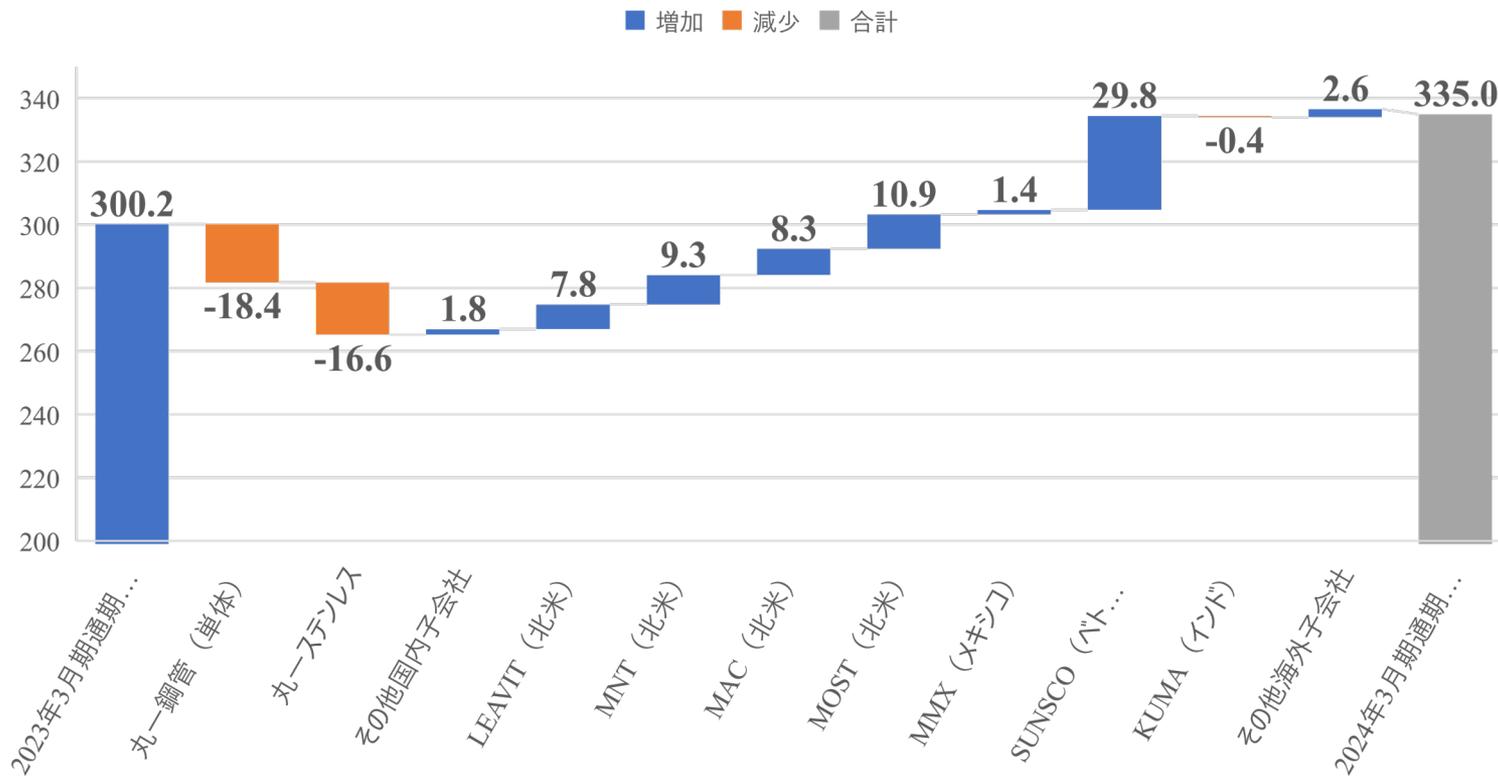
## 個別営業利益通期予想

【単位：億円】

個別	営業利益(通期)				
	23年3月期 実績(a)	24年3月期 期首予想(b)	24年3月期 修正予想(c)	(c)-(a) 増減額	(c)-(b) 増減額
丸一鋼管	201.7	174.7	183.3	-18.4	8.6
丸一ステンレス	54.1	31.5	37.5	-16.6	6.0
その他国内子会社*1	18.2	19.9	20.0	1.8	0.1
LEAVIT(北米)	8.1	8.0	15.9	7.8	7.9
MNT(北米)	-8.0	5.0	1.3	9.3	-3.7
MAC(北米)	9.9	11.2	18.2	8.3	7.0
MOST(北米)	-5.4	5.3	5.5	10.9	0.2
MMX(メキシコ)	8.1	6.5	9.5	1.4	3.0
SUNSCO(ベトナム)*2	-2.0	26.8	27.8	29.8	1.0
KUMA(インド)	11.2	10.7	10.8	-0.4	0.1
その他海外子会社*3	0.2	2.1	2.8	2.6	0.7
連結調整	4.0	3.3	2.4	-1.6	-0.9
合計	300.2	305.0	335.0	34.8	30.0

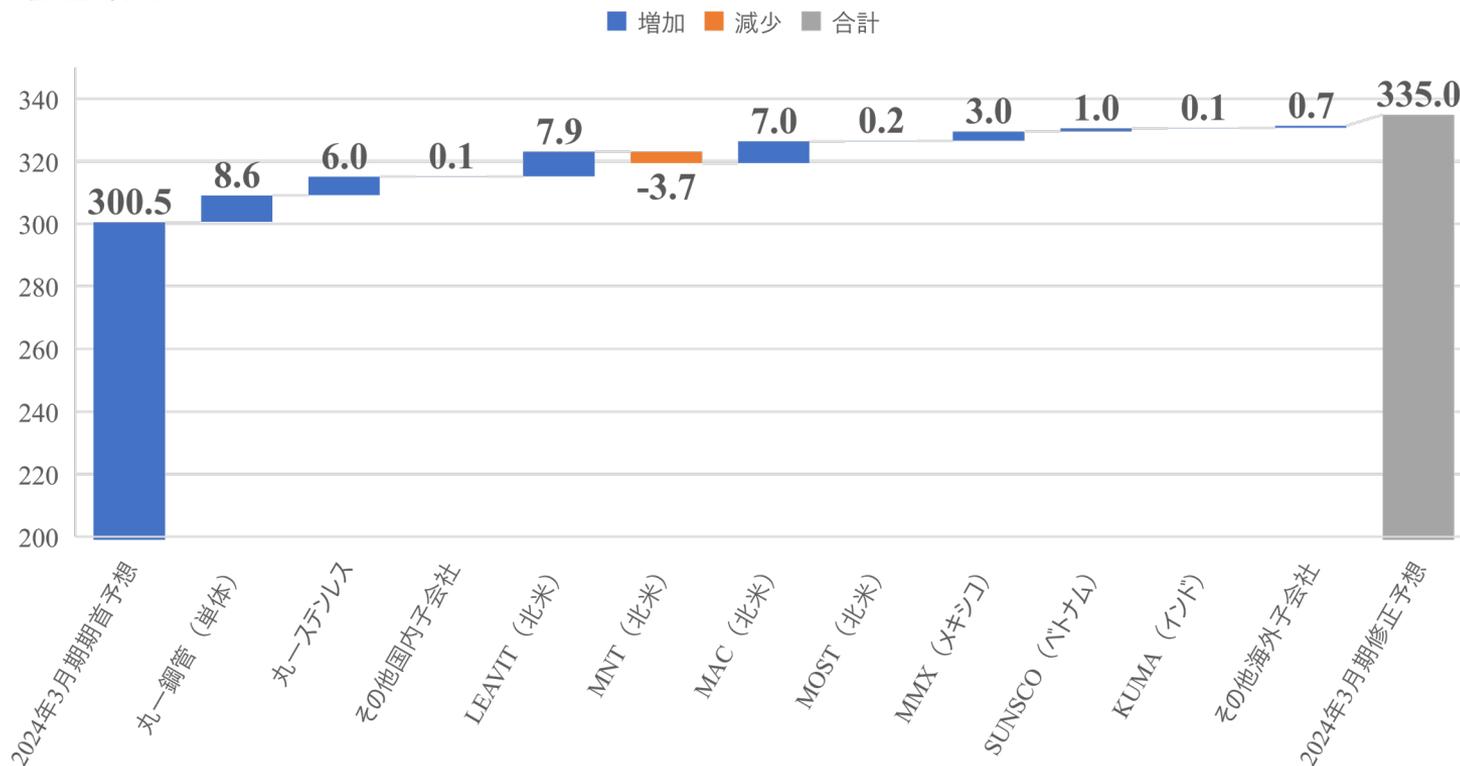
## 連結営業利益の増減要因(23年3月期通期実績→24年3月期通期修正予想)

- 数値的には、前年度落ち込んだSUNSCO社の回復がキーポイントとなる



## 連結営業利益の増減要因(24年3月期通期期首予想→24年3月期通期修正予想)

## ➤ 全体的に各社増額方向に修正



## 配当金予想の上方修正

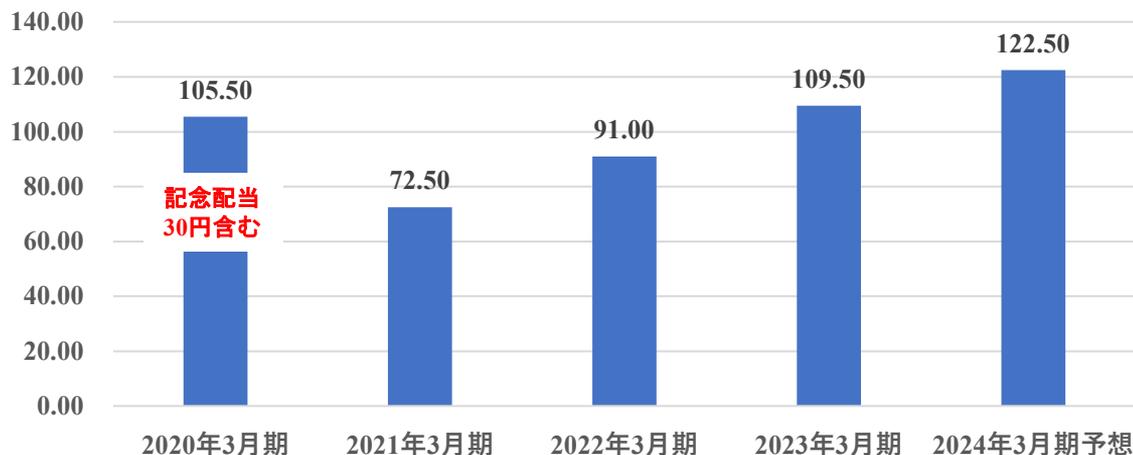
- 期初に予想した利益水準を上回る状況に伴い配当金予想を上方修正
- 配当性向40%

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	合計
前回予想 (2023年5月11日)	円 銭 —	円 銭 55.00	円 銭 —	円 銭 55.00	円 銭 110.00
今回修正予想	—	—	—	67.50	122.50
当期実績	—	55.00	—	—	—
前期実績 (2023年3月期)	—	40.00	—	69.50	109.50

## (参考)5か年の配当金推移

- 2023年3月期までの「単体のみなし当期利益ベース」から

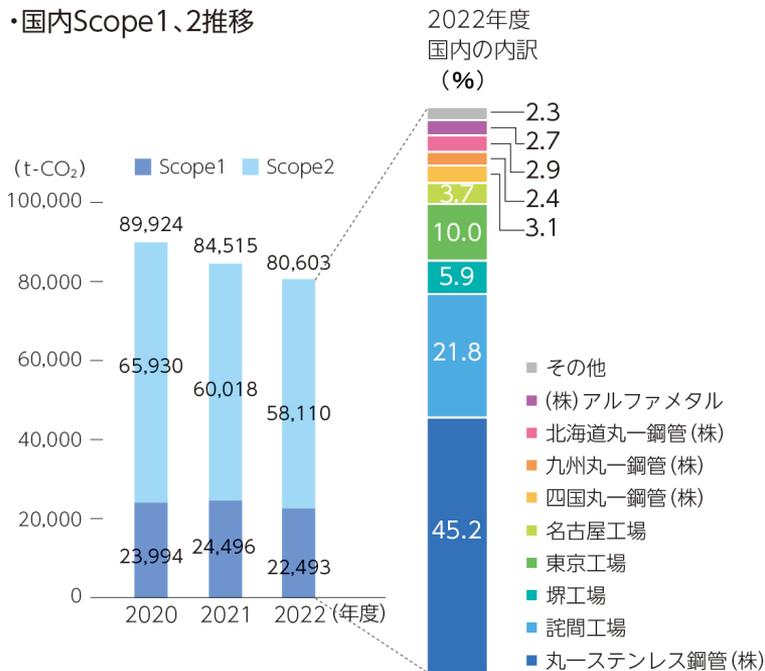
本年度より  
「連結決算における親会社株主に帰属する当期純利益ベース」での配当を実施



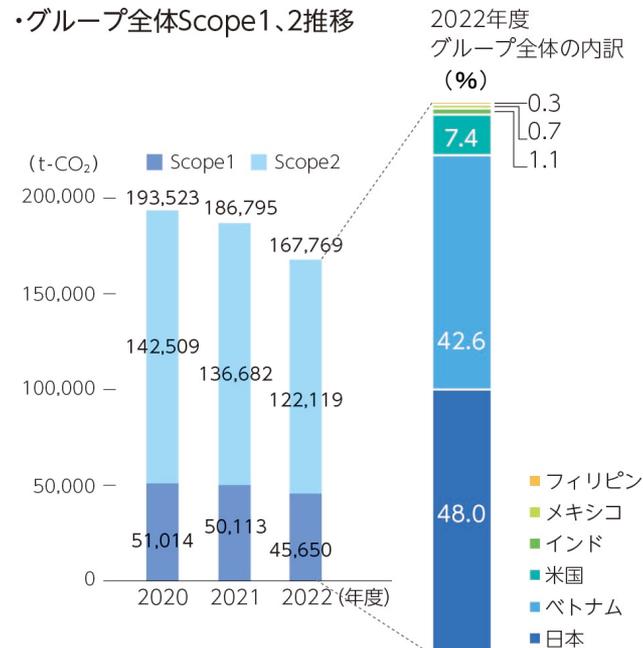
# ＜参考＞ ESGの状況

## 2022年度CO<sub>2</sub>排出量実績

・国内Scope1、2推移



・グループ全体Scope1、2推移



## 2023年度の取組

○省エネ機器への更新および省エネ活動によるCO<sub>2</sub>削減

- ① 詫間工場のめっきラインの加熱炉バーナーを高効率タイプに更(▲30t/年)
- ② 丸ステンレス鋼管のNo.2スルータイプ炉運転パターン変更(▲210t/年)
- ③ 丸ステンレス鋼管の低効率焼鈍炉廃止(▲175t/年)
- ④ 天井照明の省電力(LED)化及びトランス更新(▲370t/年)
- ⑤ 熱風乾燥炉改善、エアコン省エネフィルター設置他(▲320t/年)

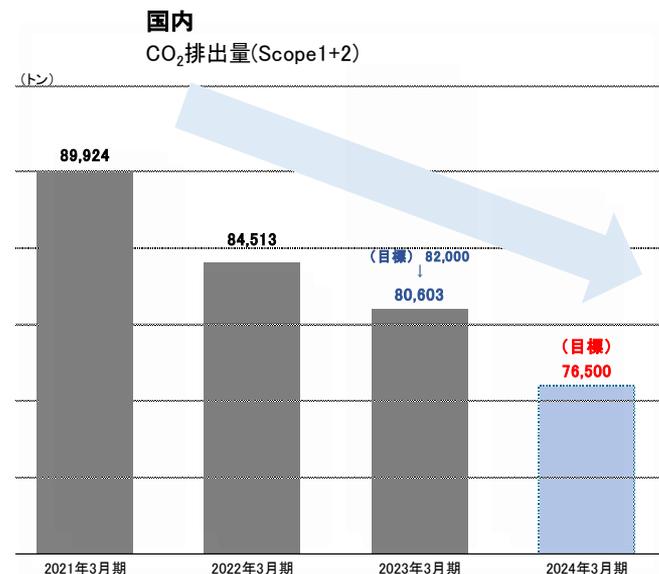
○再生可能エネルギー由来電力の継続購入によるCO<sub>2</sub>削減

## (継続購入)

- ・堺工場: ▲約3,400t-CO<sub>2</sub>/年
- ・詫間工場: ▲約5,000t-CO<sub>2</sub>/年

○カーボンニュートラルLNG購入によるCO<sub>2</sub>削減(今年度からの新規購入)

詫間工場で使用するLNGの一部をカーボンニュートラルLNG購入(▲約2,000t/年)



環境に関する情報開示

○外部評価・第三者保証

CDP評価

当社は、昨年の回答で**気候変動では前年よりもワンランクアップのスコア”B”**、**水セキュリティでは前年と同じスコア”C”**の評価を得ました。本年も回答をしており、今後も積極的な情報開示に努めて参ります。

排出量検証(JACO)

当社では、CO<sub>2</sub>排出量の信頼性・透明性の観点から、**スコープ1,2及びスコープ3のCO<sub>2</sub>排出量について、本年も第三者検証を実施し日本環境認証機構(JACO)から認証を取得しました。**

※スコープ1,2及びスコープ3の数値につきましては、**当社WEBサイトをご覧ください。**



EPD発行

当社グループの北米3社(MAC、MOST、LEAVITT)では、**米国/UL社より丸管及び角型鋼管についての環境製品宣言(EPD)の認証を取得しています。**



## 工場設備リニューアル・職場環境の見直し

- 各工場の女性更衣室・化粧室の増築・改修
- 次世代造管機の導入工事中  
(造管工程のAI化、重量物搬送時の機械化・自動化等)
- 外国人技能職への日本語教育、資格取得支援等
- 夏の暑さ対策として、東京工場に空調設備(エアコン)を導入。他の工場にも拡大予定



## 9月に当社初の統合報告書を発刊

- ESG等に関する詳細内容は以下より

[20230906082818562s.pdf \(xj-storage.jp\)](#)

## サステナビリティ推進体制の強化

リスクと機会は表裏の関係にあるとの認識の下、まず経営に関連するリスクをESG (Environment、Social、Governance) の観点で包括的に把握・識別し、評価、管理を行い、対策の立案と検証の上、実践・実装する為に次の委員会を設置しております。

## ＜サステナビリティ委員会＞

(目的) 全社的リスクマネジメント

(ミッション) 当社を取り巻くリスクの識別と評価、対処する戦略等を包括的に議論し、取締役会に報告する。  
取締役会はその報告に基づき、全社リスクマネジメントをモニタリングする。

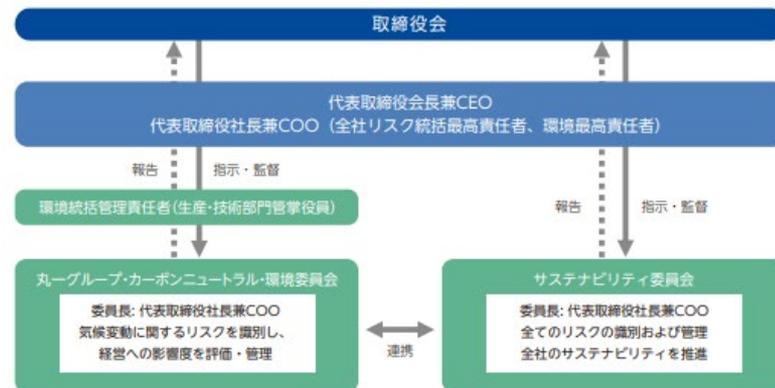
(メンバー) コアメンバー: 社長(委員長)、各管掌役員、環境・安全担当  
メンバー: コアメンバー + グループ会社所属長

(開催頻度) 半年に1回(年2回)

## ＜丸グループ・カーボンニュートラル・環境委員会＞

気候変動に関する法令遵守を含めた環境に関する諸問題対応をミッションとし、メンバーはグループ各社に設置する環境管理責任者で構成し、委員長を社長とする。

原則年1回開催し、地球温暖化防止対策・水セキュリティ対策・生物多様性の保全・公害対策・化学物質管理・廃棄物削減・その他環境に関する事項について審議します。



### 注意事項

本資料の計画・見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものです。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの計画・見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。